

第1学年道徳学習指導案

日時 平成23年 9月30日(金) 5校時

学級 1年1組(男子15名,女子17名 計32名)

授業者 奥州市立東水沢中学校 高橋規真

1 主題名 集団の一員として 【 4－(4) 集団生活の向上, 役割と責任 】

2 資料名 長縄跳び(学研「かけがえのない きみだから」)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本時の授業は、内容項目4－(4)「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める」に基づいて指導するものである。

中学生の時期は、学級、学校、地域社会などの様々な集団の中で、お互いに深く関わり合いながら相互理解を深め、それぞれの集団の中で人間的な成長を遂げていく時期である。反面、他者や自分の所属している集団のことよりも、自己を優先した行動をとってしまう時期でもある。心身ともに大きく成長する中学生の時期だからこそ、生徒一人一人が自らの役割と責任を自覚して生活し、集団生活の向上に努めていくことが重要になってくる。自らの役割と責任に全力を尽くす姿勢は、自己の成長、集団の成長、充実した生き方につながることに気付かせ、お互いに協力し合って集団生活の向上に努めていく態度を育てたいと考え、この主題を設定した。

(2) 生徒について

本学級の生徒は明るく活発で、目標に向かって意欲的に活動することができる。男子は活発に挙手発言する生徒が多い。女子は自分の考えを持ってはいるが、それを発表することには消極的な傾向が見られる。学年執行部が行う生活向上運動や宿泊研修、体育祭ではお互いに声を掛け合い、積極的に取り組む姿が見られた。一方で、係活動や清掃活動ではリーダーの指示に頼りがちな生徒や、自分の責任を最後まで果たせず、中途半端な活動になってしまう生徒もいる。

本時の授業を通して、生徒一人一人が集団の一員であることを自覚し、自らの役割と責任を一生懸命果たすことが自己の向上につながり、さらには集団生活の向上につながっていくことを理解し、充実した集団の在り方を追求していく意欲を高めていきたい。

(3) 資料について

本資料は、体育委員の仕事の忙しさと、跳べない時に浴びせられる罵声によってやる気を失うぼくが、最後まであきらめることなく呼びかけを続ける木村の姿を見て、リーダーとしての自覚を取りもどしていくというストーリーである。二組を優勝させようと決心するぼくは、仕事の忙しさやクラスのムードによって投げやりな気持ちになってしまう。木村の、困難にめげず、クラスの心を一つにしようと必死に呼びかけを続ける姿を見て、自分が無性に恥ずかしくなり、見失っていた自分の役割を自覚し、学級の目標達成に向けて責任を果たそうとする。

木村とともに、学級のリーダーとして活動していくぼくの姿を通して、集団生活の向上のためには、自分の役割と責任を自覚し、困難にめげず、みんなで心を一つに協力していくことの大切さを伝えることができる資料である。

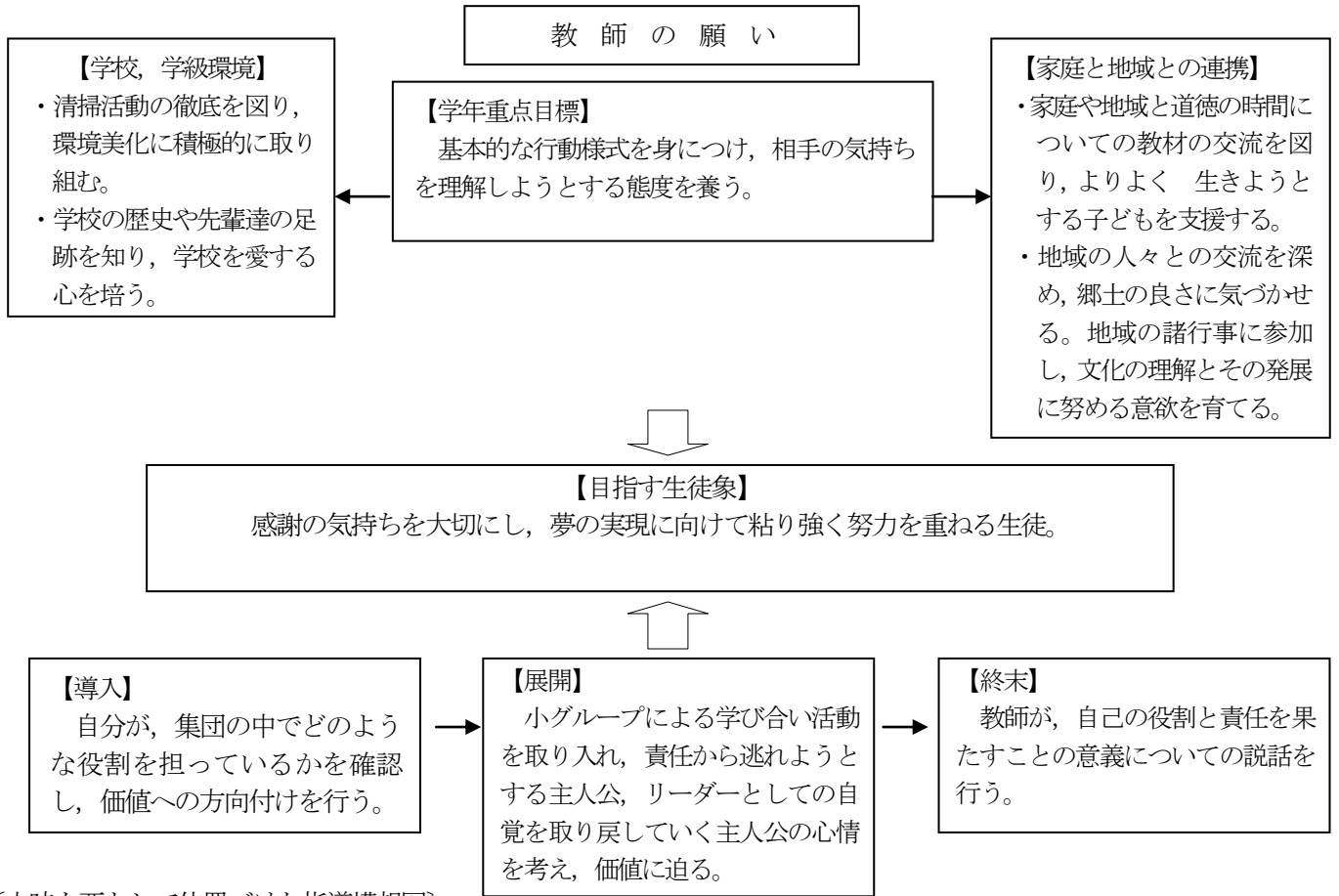
4 研究主題との関連

本校の研究主題である「豊かな心を育み、主体的によりよい生き方を目指す生徒の育成～お互いのかかわり合いを重視した道徳の実践を通して」を実現するために、授業の中に小グループ活動を取り入れる。また、座席をコの字の形とし、お互いに向き合いながら授業を行い、生徒が資料に集中し、自分の考えを呟き、意見を発表しやすい雰囲気を作るとともに、生徒の考えを教師がつかみ、ねらいとする価値への方向付けを行う。

本時の授業では、体育委員の仕事の忙しさや陰湿な学級の雰囲気によってやる気を失い、責任から逃れようとする主人公、そして木村の姿を見て、リーダーとしての自覚を取り戻していく主人公の心情について4人グループの意見交流の場を設定し、自分自身の考えを深め、価値に迫らせない。

5 指導の構想

「自らの役割と責任を自覚し，集団生活の向上に努める心」を育成する指導の構想



[本時を要として位置づけた指導構想図]

月	特別活動・体験的活動	道徳の時間	各教科等の学習	日常活動・その他	
4月 5月 8月	<p>[生徒会活動] 宿泊研修，体育祭を通して互いに協力し，責任を果たすという態度を養う。</p>	<p>◇主題名 資料名「11 裏庭での出来事」 ねらい 自ら考え，責任を持って自主的に行動しようとする態度を育てる。</p>	<p>[社会] 集団や社会とのかかわり。</p>	<p>・日常の学級活動や，各教科の授業において，小グループによる意見交流の場を設定していく。</p>	
9月 10月	<p>[生徒会活動] 文化祭を通して，自他のよさを見つけ合う喜び，目的に向かい協力してやり遂げる成就感，連帯感を培う。</p>	<p>◇主題名 資料名「15 長縄跳び」 ねらい 自己の所属する集団の向上のために，進んで自己の役割を果たすとともに，協力し合い，貢献しようとする心を養う。</p>	<p>[学活] ・集団生活の向上 ・人間関係の形成</p>		<p>・文化祭活動の役割分担を行い，それぞれの役割を自覚させ，活動を徹底する。</p>
	<p>[進路] 自己の生き方への関心を深め，進路を選択できる能力の育成。</p>	<p>◇主題名 資料名「19 夏の思い出」 ねらい きまりやマナーの意義を理解し，積極的に自分の義務を果たし，自らよりよい社会を築いていこうとする態度を育てる。</p>	<p>[総合] ・自己の目標の実現 ・他者との協調</p>		

6 本時の指導

(1) ねらい

自己の所属する集団の向上のために、進んで自己の役割を果たし、協力しようとする心を養う。

(2) 展開

段階	時間	学習活動と主な発問	予想される生徒の発言や心の動き	指導上の留意点	
導入	2分	<ul style="list-style-type: none"> 所属している集団における自分の役割について考える。 ○ あなたは今、集団の中でどのような役割を担っていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級委員長，班長，係，委員会。 リーダーを支える役割。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を確認し、価値への方向付けをする。 	
展開	展開前段 35分	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読んで話し合う。 ぼくの行動，気持ちを考える。 ○ 木村から言われた言葉が、何よりもうれしかったのはなぜだと思いますか。 ○ 学級のことは木村がやってくればよいと思うようになったぼくをあなたはどのように思いますか。 ○ 「ぼくはもう、どうでもよくなっていた」のはなぜだと思いますか。 ◎ ぼくが「無性に恥ずかしくなってきた」のは木村のどのような姿を見たからだと思いますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 勇気づけられた。 支えられた 励まされた 仕方がない。 初心を無視している。 逃げている。 木村に仕事をおしつけている。 雰囲気が悪い。 練習に疲れた。 体育委員の仕事を頑張っているのに、文句を言われたくない。 責められたくない。 最後まで諦めない姿。 仲間を励ます姿。 リーダーとしての責任感あふれる姿。 全員の心をひとつにしようと必死な姿。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が範読する。 クラスを優勝させようと本気になる「ぼく」の気持ちを押さえる。 「ぼく」の気持ちに共感的な考えと、批判的な考えを両方取り上げ、学級に対する責任から逃れようとしている「ぼく」の気持ちを押さえる。 やる気を失い、無気力になっていく「ぼく」の気持ちに共感させる。 補助発問を行い、自分の役割に責任を持ち、仲間と支え合うことの大切さに気付いた「ぼく」の気持ちに気付かせる。 	
		展開後段 10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の価値に照らして、これまでの自分の生活を振り返る。 ○ 集団の一員として生活していく上で、どのようなことを大切にしていきたいと考えますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事に責任を持ち、団結する。 お互いに励まし合い、協力すること。 集団の向上のために、自分の役割に責任を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を通して、どのような態度で、集団生活の向上に努めているか、深めさせる。
		終末	3分	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説話 	

7 資料分析表

資料 「長縄跳び」 主題『4-(4) 集団生活の向上, 役割と責任』

ねらい 自己の所属する集団の向上のために, 進んで自己の役割を果たし, 協力しようとする心を養う。

主な場面	<p>体育委員としてクラスをまとめていけるか不安だったが, 木村の言葉によって自信を持ち, 本気で二組を優勝させようと思決心するべく。</p>	<p>体育委員の忙しさに翻弄され自分の責任を果たすことに精いっぱいとなり, 学級のことは木村任せ, 逃げ腰となるべく。</p>	<p>練習のムードが険悪となり, 罵声が飛び交うクラスの中でやる気を失い, どうでもよくなるべく。</p>	<p>あきらめることなく呼びかけをする木村の姿を見て, リーダーとしての自覚を取りもどし, 責任を果たそうと奮起するべく。</p>
主人公の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員として, クラスをまとめることができるか不安な気持ち。 ・本気で取り組んで, 二組を優勝させよう。 ・やる気でいっぱい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員の仕事で精一杯なんだ。 ・学級のことは木村がやってくれればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木村へのいら立ち。 ・体育委員の仕事をしているのに, 文句を言われる筋合いはない。 ・誰かにひっかかってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木村があきらめないで声をかけているのに, 自分は何をやっていたんだ。 ・自分の責任を果たし, 二組の心をひとつに, 目標に向かおう。
学習者の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・勇気づけられた。 ・支えられた。 ・励まされた。 ・本気になった。 ・やる気が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕方がない。 ・投げやり。 ・初心を無視している。 ・逃げている。 ・木村に仕事をおしつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気が悪い。 ・練習に疲れた。 ・体育委員の仕事頑張っているのに, 文句を言われたくない。 ・責められたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後まで諦めない姿。 ・仲間を励ます姿。 ・リーダーとしての責任感あふれる姿。 ・みんなの心をひとつにしようと思死な姿。
意識の焦点化	<p>クラスをまとめていけるかという不安が, 木村の言葉によって消え去り, 優勝に向かって本気になるべくの気持ちを押しさえる。</p>	<p>木村がぼくの行動を気にかけていることに気付きながら, 学級に対する責任から逃げようとしているべくの気持ちを押しさえる。</p>	<p>学級を優勝させようとしていたが, 罵声が飛び交う集団の中でやる気を失い, 無気力になっていくべくの気持ちに共感させる。</p>	<p>困難があっても自分の役割に責任を持ち, 仲間と心をひとつに支え合うことの大切さに気付いたべくの気持ちに気付かせる。</p>
主な発問	<p>木村から言われた言葉が, 何よりもうれしかったのはなぜだと思いますか。</p>	<p>学級のことは木村がやってくれればいいと思うようになったべくを, あなたはどう思いますか。</p>	<p>「ぼくはもう, どうでもよくなっていた」のは, なぜだと思いますか。</p>	<p>ぼくが「無性に恥ずかしくなってきた」のは木村のどのような姿を見たからだと思いますか。</p>

長縄跳び

ぼく・・・体育委員

木村・・・学級委員

二組を優勝させよう

忙しい
学級のことでは木村がやってくれればいい

文句
仕方ない
逃げている

場面絵

クラスのムードが険悪

罵声

「無性に恥ずかしくなってきた」

木村の姿・・・

必死に呼びかける姿

最後まであきらめない姿

やるべき事をしっかりとやる姿。

責められたくない
誰かひっかかってくれ
拜むようになった。

優勝すること。
責任を果たすこと。

自分の役割に責任を持ち、仲間と心を一つに協力し合うことの大切さ。